

## ECO-TOP プログラムインターンシップの見直しについて（案）

### 1 社会的背景の変化

2015年9月、国連サミットで「持続可能な開発目標（SDGs）」を含む「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択



- SDGsの達成のため、政府のみならず、民間セクターや市民社会などあらゆる資源を動員して取組を促進することが必要
- 既に世界中の多くの企業がSDGsを踏まえ、本業を通じて、又は、本業以外で社会的課題に対する対応を推進
- 世界では、環境（Environment）、社会（Social）、ガバナンス（Governance）の取組を評価する「ESG投資」が急速に拡大

**企業や団体を取り巻く環境は大きく変化**

＜SDGsで掲げている17の目標＞

- 自然環境に関する項目が「陸上」及び「海洋」の2目標を占める。
- 自然環境は、「気候変動」、「生産・消費」、「持続可能な都市」、「水・衛生」、「教育」など様々な分野の項目と密接不可分な関係にある。



**企業、NPO、行政のすべての分野において  
「自然環境」との関わり方を理解したバランスの取れた人材は、  
今後より一層社会から求められる時代**

## 2 インターンシップの見直し（案）

### （1）インターンシップ見直しの方向性

持続可能な社会の実現に向けては、いずれの分野においても社会的課題に適宜対応できる人材が必要であり、実社会との接点となるインターンシップは引き続き重要な役割を担っている。一方で、ECO-TOP プログラム最大の特色は、3分野すべてにおけるインターンシップの実施であるが、制度創設当初に比べると企業を中心にインターンシップが一般的なものとなり、ECO-TOP プログラム独自のインターンシップの在り方が求められている。

こうした中、各分野におけるそれぞれの主体が具体的にどのような課題を抱え、どのように向き合っているのかを学生が肌で感じ、より高い目的意識を持って取り組むことができるようなインターンシップを目指す。

### （2）平成 30 年度インターンシップ・トライアルの実施

今後のインターンシップの在り方を検討するため、平成 30 年度は従来のインターンシップとは別に、トライアルで「課題解決型インターンシップ」を実施



本トライアルにより、インターンシップの受入に当たっての課題の整理や学生にとっての魅力など、インターンシップ制度の見直しに向けた全般的な知見を得る。

### （3）トライアル「課題解決型インターンシップ」検証内容

- ・SDGs を契機とした企業や団体を取り巻く環境の変化を学生が理解し、社会的課題に向き合う意識が醸成される内容か否か。
- ・社会的課題に対する学生の課題解決能力向上に寄与する内容か否か
- ・学生、大学、受入団体など各関係者にとって、持続可能な内容か否か（メリット、負担など）

### （4）トライアル「課題解決型インターンシップ」の実施イメージ

- ・実施前 

受入団体
------

 受入団体が普段抱えている課題を提示
- |     |
|-----|
| 学 生 |
|-----|

 受入団体が抱えている課題について事前学習
- ・日 数 実働 4～5 日間程度（実施時期・期間は各団体による）  
※連続した日数で実施することを前提としない。
- ・内 容 課題背景について、受入団体による説明や受入団体へのインタビュー又は現場視察等を通じて理解し、課題の解決策を提案
- ・実施後 

学 生
-----

 課題の解決策や実習成果については、原則、それぞれの受入先で行動を共にした学生チーム※で、レポート 4 頁にまとめて、受入団体及び東京都に提出

**東京都** レポートを基に、ECO-TOP プログラム認定検討会委員及び  
受入団体から意見を聴取→トライアルを評価

※チームでレポートを作成することを原則とする予定のため、なるべく同じ大学の  
学生が同じ受入先となるようマッチング

(5) 受入規模

- ・企業・NPO 各部門 10 名程度の受入を想定（1 団体につき、2 名程度）
- ・行政部門は、従来の都庁インターンシップを「課題解決型インターン  
シップ」に移行できないか検討中

(6) 平成 30 年度の予定

4～5月	6～9月	10月	11月
大学関係者への説明 学生と受入団体とのマッチング	インターンシップ 実施	学生によるレポート 作成、提出	インターンシップ 合同報告会